

第71回国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 特賞

東京都立国際高等学校 3年

宮川 美邑

課題①

これから生まれてくる未来世代にとってあるべき世界の姿とはどんなものとするか。

そのために私たちが優先して取り組むべき課題とは何か。

副題

なし

私は南米のエクアドルで中学校の三年間を過ごしました。自然が豊かなこの国は、感動を与えてくれると同時に沢山の課題を教えてくれました。美しい自然に魅了されればされるほど、どんどん開発が進んでいく現状に危機感を覚えたのです。

今世界中は地球温暖化に苦しめられています。例えば、サウジアラビアのメッカでは一日で千人ほどの巡礼者が熱中症により亡くなったと報告されています。地球温暖化の理由は沢山ありますが、一つとして挙げられるのは、森林面積の減少です。今地球からどんどん森林が失われていっています。エクアドルも森林伐採の例外ではありません。開発のために、太古から育まれたアマゾンの豊かな生態系が一瞬で失われていっているのです。

私が、環境問題に興味を持ったのは、アマゾンで拾った一枚の羽がきっかけでした。黄色と青色の鮮やかな羽です。拾った後に調べてみると、ルリイロコンゴウインコという鳥のものだとわかりました。インコという名前に反して、見た目はオウムのようにとても大きな鳥です。いつかまたアマゾンに行って実際に自分の目で見てみたいと思うようになりました。

その日から私は、家の周りでも羽を探すようになりました。見つかるのは主にハチドリ羽です。青い構造色をもつ羽がキラキラ輝いてみえて、夢中になって探すようになりました。しかし、道に落ちている羽を拾おうとしたら、お菓子のゴミだった、なんてことがよくありました。今まで地面に注目したことはなかったけれど、下を見て歩いていると、ゴミが目立ちます。ある時には、鳩の足にゴミが絡まっているのを見かけました。人間の活動が自然に与えている影響を思い知らされて、私は犬の散歩の時にゴミ拾いをすることにしました。しかし、綺麗にしても次の日には沢山のゴミが落ちていたり、世間の環境問題への意識の薄さが課題だと感じました。

日本に帰る直前、最後にアマゾンに行くことができました。待ちわびたルリイロコンゴウインコの群れが大空に飛び立っていく様子を目に焼き付けて、この美しい自然は絶対に守っていかなくてはならないものだと、強く思いました。

しかし、最近思いがけない形で、ルリイロコンゴウインコと再会しました。日本のペットショップで、家族が興奮しながら私に手招きをして呼ぶので、何だろうと思ったら、鳥かごの中にルリイロコンゴ

ウインコがいたのです。私が好きなことを知っているから、教えてくれたのでしょう。しかし、狭い籠に入れられたルリイロコンゴウインコは、仲間と一緒に大きな声で鳴きながら空高くに飛んでいったあのアマゾンにいた鳥とは全く違って見えました。アマゾンは唯一無二の場所なのです。世界中どこを探しても、あれほど豊かな生態系が育まれている場所はありません。東京に帰った私が鳥の羽を拾うことはもうめったにありません。理由は簡単。落ちていないからです。しかし、このまま森林開発が進めば、アマゾンにおいてですらもう羽が見つけれなくなる、なんてことも起こりうるかもしれません。何百万もの生き物が暮らしているアマゾンは、どんどん焼かれ、農業や鉱山開発が進んでいます。これからの世代にとってあるべき世界の姿とは、開発が進んだ高いビルが立ち並ぶ世界でしょうか。世界が競争して地球を汚し続ける世界でしょうか。私はそうは思いません。多様な生き物が暮らし、緑あふれる世界を目指していくべきです。アマゾンを保護することは、多様性を守り、地球温暖化を防ぐことにつながります。アマゾンの総面積は、世界の森林面積の半分ほどを占めているといわれており、多くの二酸化炭素を吸収しているからです。ほとんどの人にとっては、自分の国の中の話ではないかもしれませんが。しかし、アマゾンは地球全体を支えており、私たち一人一人が危機感を持つ必要があると思います。今、森林伐採含め数々の環境問題は世界一丸となって早急に解決していかなくてはならない課題だと考えます。